

大学野球チームの「首脳陣」に関する質的研究  
 - チームマネジメントにおける危機に着目して -

藤村 凌 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)  
 指導教員 豊田 則成

キーワード：首脳陣，チームマネジメント，危機，基盤

1, 緒言

本研究は、B大学硬式野球部首脳陣は「チームの危機をどのように語るのか」というリサーチクエスチョン (Research Question : 以下 RQ) を設定した上で、質的にアプローチを行った。そこでは、大学硬式野球部首脳陣のチームの危機に関する語りに着目し、発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

2, 方法

インフォーマント (informant : 以下 Inf. と略す) は、B大学硬式野球部学生首脳陣、9名とし、Inf. 一人当たり 50 分程度の半構造化インタビューを 1対1 で実施した。分析方法については、質的研究法である複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model, 以下 TEM と略す) を用いて行った。

3, 結果と考察

本研究では、左記の RQ に対して、質的にアプローチを行った結果、首脳陣は「チームマネジメントにおいて、2 段階の危機に直面する。その危機とは、首脳陣と選手間で共通認識が存在していない状態と選手自身が自己の弱さに直面し、立ち止まっている状態のことである。首脳陣はその危機を意味のあるものにするために、ミーティングを重ね、意思の疎通を図ったり、選手自身が自己の弱さに勝つためのきっかけづくりをしてあげることによって、チームや自己の基盤が形成され、らしさを追究するようになり、チームが改新される」という仮説的知見を導き出した。

4, まとめ

すなわち、チームの危機を意味づけることによって、「らしさ」を体得していくといえる。

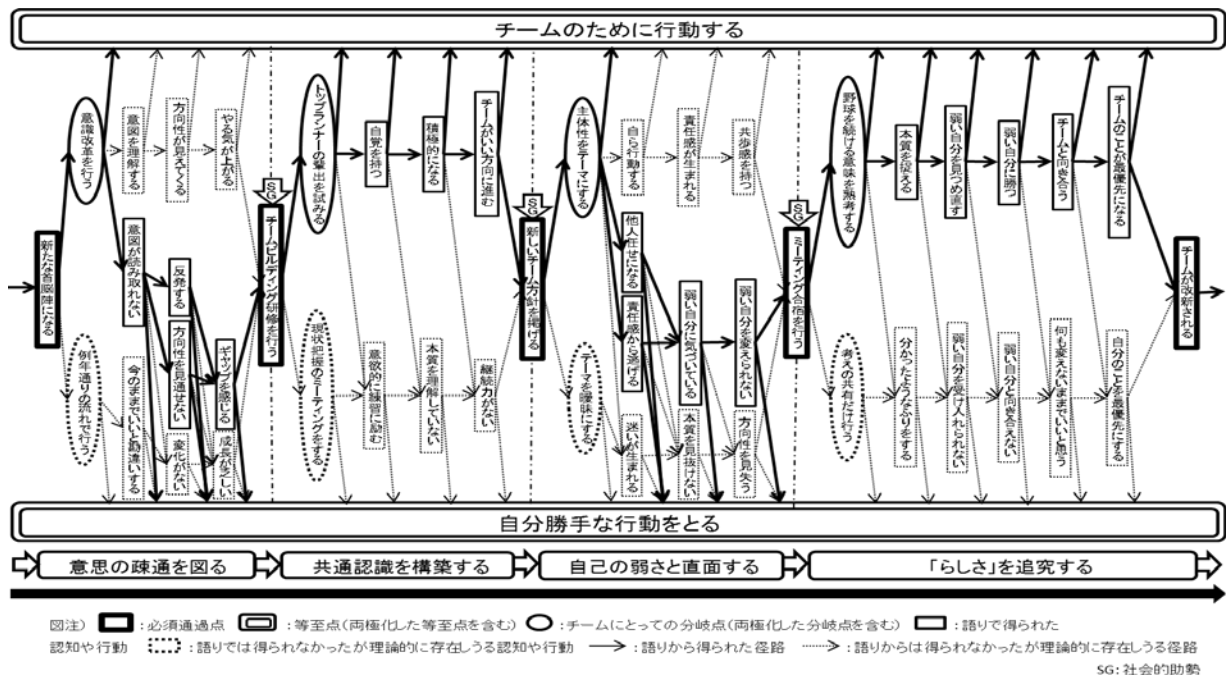


Fig.1: 「らしさ」を追究することでチームを改新していくプロセス